

第 10 回微量 P C B 廃棄物処理事業に係る地域環境委員会議事要旨

1. 日 時

平成 27 年 8 月 6 日（木）15:30～16:30

2. 場 所

ホテルルートイン東京 東陽町 芙蓉の間

3. 出席者

【委 員】 浦野委員長、竹内副委員長、綾部委員、木下委員、小安委員、佐藤委員、
関戸委員、高村委員、野崎委員、前川委員

【事務局】 東京電力(株) 木村、小山
東京臨海リサイクルパワー(株) 菅井、菅原、堂元

【傍聴者】 1 名

4. 議 事

微量 P C B 汚染絶縁油の処理状況、環境モニタリング状況、安全対策、その他について報告した。

微量 P C B 汚染絶縁油に係る事項については問題無く処理されている事を確認頂いた。

また、構内作業者の安全確保並びに設備の安全点検を含めた対策を今後もしっかり実施し事業を進めて欲しい旨、委員の皆様より意見を頂いた。

主な質疑、意見は以下の通り。（「○」：委員、「□」：事務局）

（1）環境モニタリング状況について

○平成 26 年 8 月の敷地境界大気データの中で、北側の P C B 濃度が $1.0(\text{ng}/\text{m}^3)$ と高いが、状況を確認されているのか。

□測定結果の中では大きい数値となっていますが、バラツキの範囲内と考えております。操業自体も特に変化はありませんでした。

○いざという時はきちんと報告して、対応策を構築して頂きたい。

○大気中の濃度は気象条件、特に風速でかなり変動するので、この数値はむしろ変動が少ない。P C B は特定の排出源が明確でなく色々な所から少しづつ出てくるため、気象の影響がそのまま出やすい。ダイオキシンは焼却炉等特定の排出源があつて、風向気象条件で P C B と違う挙動を示すことがある。

○敷地境界測定点から少し離れたバックグラウンドを採ることを検討してはどうか。

○環境省、経済産業省、東京都等のモニタリングデータを利用して、他の地域と比較する方がよい。

(2) 安全対策について

- 作業者の健康管理・安全管理が一番大事である。教育訓練については、本番を想定して進めて頂きたい。消防署・特殊部隊等といったプロフェッショナルとの連携訓練も重要である。
- 緊急対応訓練において、責任者が不在の場合、現場のメンバーでの判断させるプロセスを是非確認して欲しい
- 装着するプロテクターの重量も作業員への負担にもなるので重さはどの程度か。
- ウレタン等素材で1kg程度である。
- 事故に遭われた方はその後どうなったのか。
- 1ヶ月の入院で3月に退院、6月には現場復帰されています。
- 10年経って初めて耐火物が剥離したことからすれば、今後引き続きこの炉を使用するにあたっては、剥離しない手だてが必要と考えるが。
- 耐火物は年1回の定期点検の中で目視点検を行っていましたが、今回の事象を踏まえ、打診による方法で、浮き・剥離がないかを点検することを追加しました。
- 耐火物の耐用年数は使用条件により幅があり、熔融炉のバーナー近傍ではガス流れによって減肉が顕在化している箇所もあり、順次耐火物の打ち直しを実施しています。今後も状態をしっかりと観ながら展開していきます。
- TRPにおける受入タンク内のガス中PCB濃度は、高濃度PCBの場合と比較して5万分の1程度と大気の基準値以下であり、危険性は殆ど無い。
絶縁油は可燃物のため火災に注意すること、また周辺に漏れ地下水・海水へ流出するといった事故時の対策が必要である。
- 今回この機会にPCB設備中心に全体の安全点検をして頂きたい。

(3) その他

- 次回の委員会開催については、平成28年1月下旬又は2月上旬を計画しております。
詳細な日程については、事務局より後日調整させていただきます。

以 上